

8月下旬、福島市に「まん延防止等重点措置」が適用され、学校の行動基準がレベル3に引き上げられた。本校では、分散登校による対面授業と家庭に配信するオンライン学習を組み合わせたハイブリッドな学習を進めることとした。

このことを決める過程では、校務運営委員会を開き、先生方から意見を出してもらった。分散登校による対面の授業は、昨年度も経験しており、その反省を生かしながら実施すればよい。問題はオンラインによる学習である。

やったことがないことに抵抗感があるのは当然である。だが、チャレンジしようとする先生とそうでない先生とでは、生徒に与える影響が違ってくる。また、世の中は、ZoomをはじめWeb会議システムを使うのが当たり前になっている。

とはいえ、オンラインで配信するには機器を使うことになる。余計に先生方の不安感が増す。委員会では、様々な意見が出された。意見は出してもらったほうがよい。結局、段階を踏んでハイブリッド型の学習を進めることにした。

委員会の翌日には、打合せで、今は緊急時であること、さらに状況が悪化した場合にはオンライン配信による学習が必要になること、今がその準備を進めるときであることなどを先生方に話した。トラブルや問題点を一つ一つ解決しながらみんなでやってみましょうということである。

その日の午後には出張があった。夕方に学校に戻ると、推進役のHT先生を中心に、学年ごとにオンライン学習が配信できるようにと準備を進めているところだった。そこには、1年目のSS先生や2年目のH先生、そしてK先生などの姿があった。

教頭先生が、半分は驚きの表情を浮かべながらも、何ともうれしそうに、こんな話をしてくれた。M先生が、「メタモジはどうやるの。ああ、そんなことができるんだ」などと、まわりの先生方に聞いていたというのである。オンライン学習の準備も進めているとのことだった。

そのM先生は、オンライン学習に抵抗があった先生の一人である。教頭先生の話聞いて目頭が熱くなってきた。その場には、SS先生がいた。彼は、教頭と私の話を聞いていた。私は、彼に話した。「変わることができる先生がすばらしいんだよ」とすると、M先生のことを彼が「カッコいい」と言ったのである。

M先生は、今年度末でご勇退される先生である。そういった方が、慣れないことにチャレンジし、生徒のために努力する姿は、まわりの先生方に大きな影響を与える。波及効果がある。M先生は、SS先生と同じ英語科の先生である。英語の指導技術は、SS先生がM先生から教わることが多いだろう。ところが、オンラインなどのICTになると、SS先生のような若手から経験豊富なベテランが教わるという現象が起こる。それがいい。

オンライン学習ができる準備を進めるということは、先生方がそのためのスキルやノウハウを身に付けるということである。SS先生もH先生もK先生も自覚をもってやってくれている。M先生のようなカッコいい先生の存在も大きい。オンライン学習を進めるのは容易なことではない。だが、副産物としての先生方の成長や意識の変化、そして、組織、集団としてのまとまりなどが大きい。

決める段階では意見を出す、決まったからには、前向きに取り組む。M先生はプロだと思う。カッコいいプロの先生である。SS先生は、またいい研修をした。これこそOJTではないか。推進役のHT先生もうれしそうに話を聞いていた。なにせ、この人がいなければ、何も進まない。野田中学校には、M先生をはじめカッコいい先生が増えている。